

# Iリーグ2010 総集編①

## 一次リーグ

### 5.30 VS KEIO FC B

○4-0【笠井・磯本2・苗代】

### 6.19 VS FC拓大

○5-1【磯本3・苗代・水野】

### 6.26 VS 立正大

△2-2【苗代・小菅】

### 7.14 VS 日体選抜

△3-3【高橋竜2・渡邊】

### 7.24 VS MEKAI UNIV FCB

○2-0【楠瀬・磯本】

### 8.11 VS 筑波大

△2-2【佐藤良・高橋翔】

### 8.25 VS 中大B2

●3-4【馬込・江川・小菅】

### 8.28 VS 青学大U-22

○3-1【磯本・苗代・佐藤良】

### 9.1 VS 日大B

●0-1

### 9.9 VS 早大WHITE

○7-0【OG・楠瀬2・馬込・磯本・佐藤岳・水野】

### 9.12 VS 専大FC.B

●1-2【水野】

### 9.18 VS TUA FC B

○4-0【楠瀬・佐藤良・磯本・高橋竜】

## 二次リーグ

### 10.2 VS 日大A

●1-2【佐藤良】

### 10.16 VS 中大B1

●1-2【高橋竜】

### 10.24 VS 国士大C

○1-0【佐藤良】

## 二次敗退も、成長の1年

インディペンデンスリーグ、通称Iリーグは、トップチームに出場することができない選手たちに与えられた唯一の公式戦である。4年生の強い気持ちや新戦力の台頭など、実は見どころの多いIリーグ。その中で、今季の駒大の戦いぶりを振り返る。

スタートは順調だった。KEIO FCBに快勝すると、その後5試合は負けなし。この間18得点と攻撃陣が爆発、驚異の数字を叩き出した。磯本圭吾や苗代泰地、佐藤良らが起点となり、徹底したサイド攻撃でゴールを陥れる。Iリーグチームを率いる岩本哲也コーチも「今年は攻撃力がある」と評したが、無得点の試合は一次リーグの日大B戦のみという、とてつもない破壊力であった。

一方で、「良い時と悪い時の差が激しい」(岩本コーチ)という言葉通り、好不調の波が大きかったことも事実である。青学大をシュート2本に抑える快勝を収めたかと思えば、次の日大B戦ではシュート1本に終わるなど、不安定さも露見された。また、立ち上がりや終盤に失点してしまうケースが多く、勝ちをものにできない勝負弱さのようなどころも見受けられた。

一次リーグは3位で突破し、迎えた二次リーグ。初戦の日大A戦では、セットプレーから先制点を奪いながら逆転負け。続く中大B1戦でも逆転負けを喫し、あっさりと敗退が決まってしまった。だが、高橋翔や水野裕之ら1年生が台頭し、磯本や楠瀬美潮、江川昇吾ら2、3年生の成長といった個人の部分では発見が多かったIリーグ。来季に向けて、彼らのさらなる飛躍に期待したい。

編集部が勝手に選定!!

## Iリーグ2010 VEST MATCH 駒澤大学1-2中央大学B1

### 気迫こもった好ゲームも、劣勢跳ね返せず

「今年(Iリーグ)を象徴するような試合」。岩本コーチはそう振り返るが、今季のIリーグで最も気持ちのこもったゲームを展開した。

試合は序盤から駒大ペース。負ければ終わりというギリギリの状況の中で、前線から積極的にプレスを仕掛け、高い位置でボールを奪う作戦がハマった。18分に佐藤良の左クロスを高橋竜之介が頭で合わせて先制すると、その勢いはますます加速。追加点は時間の問題に見えた。ところが、30分小菅千春が2枚目のイエローカードでまさかの退場。不可解にも思えたこの判定が、後の試合展開に影響を与えることになる。

1人少なくなった駒大だが、後半も立ち上がりからアグレッシブなプレスを主導権を握る。右の楠瀬、左の佐藤良を中心に攻撃を展開し、数的不利を感じさせない戦いぶりを披露。だが、71分に初めて作られた決定機を決められ、同点に追いつかれると、徐々に運動量が低下。守備に追われる時間が多くなり始める。

72分には、佐藤岳のクロスに大園祥太が合わせるなど最後まで勝ち越し点を狙いに行ったが、アディショナルタイムにPKを取られ万事休す。無念の二次リーグ敗退に終わった。

敗れたものの、この日の駒大からは鬼気迫るような気迫を感じた。結果は残念だったが、来季に繋がる好ゲームでもあった。



敗戦にうなだれる選手たち (撮影:近藤信太郎)